

平成28年2月

都橋一仁 学位論文審査要旨

主査 萩野 浩
副主査 竹内 裕美
同 領家 和男

主論文

Associations between systemic markers of bone turnover or bone mineral density and anti-resorptive agent-related osteonecrosis of the jaw in patients treated with anti-resorptive agents

(吸収阻害剤投与患者における吸収阻害剤関連顎骨壊死と全身骨代謝マーカーまたは骨密度との関連)

(著者：都橋一仁、中林基、小谷勇、木谷憲典、領家和男)

平成28年 Yonago Acta medica 59巻 45頁～53頁

参考論文

1. 下顎枝に発生した中心性巨細胞肉芽腫の1例

(著者：都橋一仁、土井理恵子、柴田昌美、中林基、木谷憲典、領家和男)

平成17年 日本口腔外科学会雑誌 51巻 144頁～147頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は骨吸収阻害剤関連顎骨壊死（ARONJ）と全身骨代謝マーカー（NTXとBAP）、骨密度（BMD）との関連を検討したものである。その結果、骨吸収阻害剤投与患者において、下顎骨のBMDは、顎骨に外科的侵襲を加えてもARONJを発症しなかった対照群で 403.5 ± 31.7 、ARONJ群で 522.4 ± 58.7 でARONJ群は対照群と比較して有意に高値を示した。さらに、ARONJ治癒群とARONJ非治癒群の両者間に有意差はみられなかった。また、臨床病期群間ではStage1、Stage2、Stage3ともに対照群と比較してすべての群で有意な高値を認めた。本論文の内容は、ARONJと骨代謝マーカーとの関連は見出せなかったが、下顎骨のBMDがARONJ発症の予測マーカーになる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。